

## 【ジェネリック医薬品】

ジェネリック医薬品を  
使ってみませんか

## 1 ジェネリック医薬品とは

医療機関で診察を受けたときに医師から処方される「医療用医薬品」には、新しく開発・販売される「先発医薬品（新薬）」と、先発医薬品の特許が終了した後に他の医薬品メーカーが同じ有効成分で製造・販売する「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」があります。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品の有効成分はそのままに、これまで効き目や安全性が実証されてきた薬と同等と確認された上で製造・販売が認可されていますので、安心して利用することができます。

## 2 ジェネリック医薬品のメリット

ジェネリック医薬品は、先発医薬品よりも短い開発期間、低い開発経費で製造・販売されるため、先発医薬品の薬価より平均して3割から5割安く設定されています。

下表のように、**特に慢性的な病気によって薬を長期間服用する場合には**、ジェネリック医薬品を利用することで薬代を大幅に減らすことができます。

## 高血圧の薬で比較（自己負担割合が3割の場合）／年額

先発医薬品 15,330円	→	ジェネリック医薬品 安いタイプ 1,090円（差額 14,240円） 高いタイプ 6,570円（差額 8,760円）
------------------	---	--

※薬を1日1錠365日服用した場合。平成24年4月現在の比較例

## 糖尿病の薬で比較（自己負担割合が3割の場合）／年額

先発医薬品 13,140円	→	ジェネリック医薬品 安いタイプ 5,470円（差額 7,670円） 高いタイプ 7,600円（差額 5,540円）
------------------	---	---

※薬を1日1錠365日服用した場合。平成24年4月現在の比較例

※参考：政府広報資料

**共済組合では、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担額の軽減に関するお知らせを本年中に送付する予定です。**

## 3 ジェネリック医薬品を使用するには

病院や診療所等で医薬品を処方される際にジェネリック医薬品を選択可能です。

ただし、すべての医薬品にジェネリック医薬品があるわけではありませんのでご注意ください。また、有効成分や効果は先発医薬品と変わりませんが、使用されている添加物が異なる場合があり、アレルギーがあると選択できない場合があります。詳しくは、病院の医師や薬剤師にご相談ください。

問合せ先 給付貸付課短期給付係 | 03-5320-6827